

# おお大勝利

平成 30 年度山東サッカー一部報第 13 号 (11 月 11 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

公式戦、非公式戦が 9 月末・10 月ありましたが、またまた今野の怠慢により、部報発行が遅れましたこと、お詫びします。以前は負けてもすぐ更新（作成）していたのですが、今回ばかりは本格的に「書く気にならなかった」。遅まきながら、2 か月分の報告どうぞ。

## リーグ戦薄氷を踏む残留

9 月 24 日 (月) 秋分の日の振替休日に Y2A 最終節米沢工業戦が行われました。**山東はここまで暫定 6 位**。全 8 チーム中 7・8 位が原則降格となるので、ここで勝ち点をあげておかないと、7 位の山本学園に逆転されかねない。そして 5 位は対戦する米沢工業であり、**この試合に勝つと (山東から見ると逆転の) 5 位終了で残留決定、負けると 6 位 or 7 位となり、他力にて降格しかねない**。3 部への降格争いに巻き込まれるのは山東のリーグ戦史上初めてのことで、残念ではあるが、チーム力を高められていないので、それも致し方ない。

さあ、重要な試合、会場は県総合運動公園第 2 運動広場にてキックオフ。試合が始まると、両チームアバウトな攻撃で決定機を作れないものの、ヘディングの競り合いを含む球際の攻防や細やかな技術の点で、米工が一枚上手。山東からすると耐える時間帯を多い。そこを耐えながら、FW オサなどがボールを粘って運んで、CK・FK を獲得し、得点する、というのが、最近の山東の流れ。流れといっても「流れからの得点」の少なさは否めないが、降格に向けて尻に火がついている状況、贅沢言っている場合ではない。何とかスコアレスで前半を折り返す。

米工は引き分けでも 5 位終了が決まるのでこのままでも良いが、山東は引き分けでは依然 6 位 or 7 位であり、このままではいけない。とはいえ、**山東の攻撃、ゴール方向に向けて FW にヘディングを求めるロングボールにばかり頼り**、というか、他の選択肢を off the ball の選手 (ボールを持っていない選手/オフの選手) が作れていないし、on the ball の選手 (ボール保持者/オンの選手) も相手のプレッシャーに焦るばかりでパスコースを探せず、やむなく蹴りこんでばかり。そして、FW はさしてヘディングが強いわけでもなく、逆に相手 DF やボランチは的確にヘディング等で跳ね返すものだから、山東の攻撃、**相手の強みに自分から嵌る戦いをし続ける**。「現在のやり方 (攻撃の仕方) ではうまくいかないから、違うやり方でやった方が良い」という試合中の判断などできる余裕もなく、そして、そう判断しても先のオンとオフの選手の都合によりできず、正直意味不明な戦いをする山東。「うまく行かないとわかっている、(目の前の敵にボールを奪われないためには) それしかできないから、そうしている」というだけにすぎない。残念ながら、それが山東の現実。そんな中、後半の中盤、米工の素早いスローインのリスタートの対応が遅れ、アウトサイドで相手をフリーにしてしまう。そこからゴール方向に斜めにボール運ばれてしまい、鮮やかに崩され、失点。その後、DF の足が止まり、相手ロングボールへの対応を怠ったところをとが

められ、0-2。最後、強引なドリブル突破などで、意地を見せるも、結局0-2の敗戦。

残留 or not を他力で待たねばならない残念極まる結果でリーグ戦終了。新チームになってからは、1勝5敗1分け。3年生がいるチームで勝ち点をもっと獲得し、新チームでの戦いをもっと楽に進めたかったのが本音だが、厳しいことを言えば、**夏場を経て秋までに1mmもチーム力を上げられなかった（7月と9月の戦いにほとんど変化がなかった）ことが、指導者としては残念に思うし、力量不足を感じざるを得ない。**その後、他力ながら2部残留が決まりましたが、「このままではいけない」と強く感じさせられた今シーズンでした。後援会の皆様、保護者の皆様、今期のリーグ戦の応援ありがとうございました。

# 充実の進学校大会そして痛恨の選手権

9月29日（土）30日（日）には、**第9回を数える進学校大会（ライザカップ）**が蔵王坊平（A戦はたいらぐらG、B戦は猿倉G）にて行われました。元々この企画、**当時山南にいた良二先生（現南陽）と酒東にいらした石川先生（故人）**から、「進学校大会やろうよ、山東が声かけてよ」と頼まれ、山交グループに掛け合いカップを購入してもらい、蔵王ライザのウッディロッジに泊まって、たいらぐらG・猿倉Gにて開催し始めた。思い返すに、第1回大会を公務で欠席した石川先生が第2回大会を見ることなく急逝され、発案者が一度も坊平に降り立つことがなかったのは、残念でならない。石川先生は第1回大会に御芳志を寄こして下さり、その心意気に感激したことが思い出される。ともかく、顧問として9回連続出場が**ジーコ先生（興譲館）とI山先生（酒東⇒新北）**と私。在職歴から考えて、連続出場記録が途絶えるのは、ジーコ先生か今野かの争い。ジーコ先生、勝負ですね。

そんなことはさておき、この第9回大会は記念大会と言ってもいい。なぜかと言えば、**福島県の進学校安積高校さんが、山形県の進学校大会に「乱入」、**県内6チーム（興譲館、山東、山南、新北、酒東、鶴南）+安積の7チームにて初めて開催。いや～、「乱入」などと書きましたが、こちらからお誘いしたら、快諾して下さい、とても嬉しかった。マンネリという程でもないのですが、ここ数年、「県外のチーム1つくらいは増やせるんじゃないか」と進学校大会の綿密なスタッフ会議で発言してきただけに、とうとう実現できた、この進学校大会も県だけでなく東北を巻き込む大会になった、という感慨あり。

さて、大会はチーム数が増えた関係で試合時間は短く、ただ、試合数は多く。試合数が多いだけに、二日目の第一試合など朝7:00キックオフ（安積A対山東A）。でも、進学校が交流を深め、切磋琢磨するのは、やはり楽しい。今年から山東のトレーナーを引き受けてくださった**理学療法士・トレーナーの伊藤徳明さん**（鶴岡市「さとう整形外科クリニック」リハビリテーション科部長）が大会全体（全選手）をサポートして下さい、安全面でも配慮できた。

**山東は酒東に大敗するなど、過去最低の結果に終わる。**何とも情けないが、これが今年のチームの現状。**優勝は安積高校さん**ということで、**純金のカップ（ウソ）が栗子峠を越えてしまった！**これで安積高校さんは来年も出場は決定ですね。保護者の皆様、応援ありがとうございました。**B会場では、迎いの遅れた生徒を心配して、伊倉さん、小屋さん、四益さんが残って下さり、大変助かりました。**改めて、ありがとうございました。

さて、進学校大会での経験を活かし、次は選手権県予選！ 10月6日（土）一回戦米沢東戦を迎える。**米沢東は、今年から、酒田西からサッカーを専門とする部顧問 E 藤先生が移動してきて、今後の活躍が期待される。**今年の米東は3部リーグ戦はじめ厳しい戦いだったようだが、現在の山東、「3部のチームには勝てる」などという楽観は全くできない。会場は山形明正高校 G（人工芝）。ピッチ状況が良くなればなるほど敗北率が高まる悲しい今年の山形東、人工芝で喜んでいられない。

試合が始まると、山東のFWを警戒してか、米東のDF/バックが5枚。または、3バックで両アウトサイドも守備時には下がり、局面的に5バックに見える。そして**山東FWへの縦パスには、一人必ずインターセプトを狙い、出足良くチャレンジしてくる。**オサに加え、ボールを運ぶ力のあるノブをFWにしたこの日の山東だが、オサ&ノブも縦パスに対してボールに寄らずに単に相手に体を預けようとするものだから、前に入ろうとする相手に簡単に体を入れ替わられてしまい、何度もボールを奪われる。相手をよく観ながらプレーできるのが（相手と駆け引きできるのが）良い選手の一つの条件だが、オサもノブもまだまだ未熟と感じる。それでいて裏への配球もカバーリングの相手選手が狙っており、米東のディフェンス、鍛えられている。また、米東の走力あるFWを走らせるカウンターは鋭く、ヒヤヒヤさせられる。もちろんその前提として、**DFからMFへのパスを奪われるなど、山東のボールの奪われ方が悪すぎる**という事情は大きい。**試合展開としては、山東のボール保持の時間が若干長いものの、絶好機は米東の方が多いのではないか**と感じる。

その米東、後半早々の選手にはじまり痙攣する選手が多数出て、どんどん交代メンバーが入ってくる。それに応じて山東がペースを握れば良いが、展開は前半通り、米東が良い守備から良い攻撃を仕掛け、攻めている山東の方が劣勢。**公式記録では前半半を通じて山東のシュート15本、米東のシュート5本**と大差がついているが、前半同様ビッグチャンスは相手が上ではないか。山東も、ノブのドリブルや**コウダイ**のドリブルからゴール寸前まで迫ったチャンスはありましたが、相手のロングボールに**CBダイキ**がヘディングするも被ってしまい（後逸してしまい）、そのままドリブルでGKまで抜かれるシーンを作られるなど、失点しても全くおかしくなかったシーンあり（これはダッシュで戻ったダイキがスライディングで相手シュートをはじく、粘り強いナイスプレーに助けられた）。

延長戦に入っても、双方決め手に欠け、この試合PK合戦入り。山東は最近、試合中のPK、またはPK合戦にて、相手が全部決める（GKが止められない）試合が続いている。**おそらく新チームになってから15本連続くらいでPKを決められている。**GKが止められていないという事情もあるが、相手が枠を外してもいない。「そろそろ外してくれるだろう」そして「そろそろ止めてくれるだろう」と期待が高まる。選手には、「地区新人と異なり、GKにコースを読まれてても取られない強いシュートを打て」と伝え、見守りましたが・・・**やはり今回も相手は全て決め、山東は確か5人目が外し、合計100分（80分+20分）スコアレスのPK合戦にて敗北。**痛恨の敗戦、しかも、**しっかり守備をしてからのカウンターという相手のゲームプラン通りの敗戦であり完敗となりました。**

またこの試合、**とっても残念なこと**がありました。選手は全くもって冷静に戦っているものの、ベンチがひとり熱くなり、主審から両ベンチ呼ばれ注意を受けるということがありました。選手も熱くなりベンチも熱くなって試合が荒れる、ということはよくあるのですが、**ピッチ内はいたって普通に試合が進んでいるのにピッチ外が勝手にうるさくなり、主審から注意を受けるという、前代未聞の、そして恥ずべき出来事**がありました。相手選手や相手千

**ームを不快にする言動には、お互い気を付けたいものです。**

ということで、今期の山東、県新人には出られないので、これが最終戦。地区1年生大会という非公式戦はありますが、公式にはこれで終了。**何とも寂しい一年**となりました。この最終戦の敗戦は非常にこたえるものがあり、最初投げやりな気持ちになったのですが、時間とともに猛烈に悔しさがこみ上げ、ここ最近公務や育児で部活動指導から気持ちが離れかけていた自分を大反省し、「**絶対来年見てろ**」と**気合が入るきっかけ**となりました。**こんなに気合が入ったのは、久しぶりです。**

さて、その来年に期す山東、選手権が終わって、やっと本当の危機感が出てきたのか、**練習では非常に高い意識が見受けられ、選手は練習していて少しずつ上達している自分・チームを感じているでしょうし、指導者も良いトレーニングが積んでいることを実感しています。**「遅いよ、選手権前にこうなれよ」というのが本音ですが、**痛恨の敗戦を喫しても変わらないよりはよっぽど良い。**来年までに秋冬に力をため、周囲を驚かせる気にみなぎっています。

**まずは、皆さま、今年一年の応援ありがとうございました。今年一年の不甲斐ない戦いにも熱く応援して下さい、感謝の言葉しかありません。来年は、変化した山東をお見せしますので、期待していて下さいね。**

一年生大会については、先ほど非公式戦と言いましたが、毎年一年生は結構気合が入る大会です。ここ最近山東は勝ててません。人数の少なかった去年は仕方がなかったにせよ、今年は何かが人が出ても11人を割るということはありませんからね、まずは1勝したいところです。応援よろしくお願いします。

**11月24日(土) 地区一年生大会一回戦 VS 明正B 対 東海B の勝者 11:00~@山中央G  
勝つと、同日二回戦 VS 山形中央対山形商業の勝者 13:30~@同上  
また勝つと、25日(日) 準決勝 11:00~@石鳥居(山銀G)、決勝 14:10@同左**